9　えにっき

たのしい　なつ休みに　なりました。

じろうくんは、この　なつ休みには、夕ごはんの　あとで　まいにち　えにっきを　かこうと　きめました。えの　すきな　じろうくんは、さきに　えを　かいて、それから　おはなしを　かくのです。

なつ休みに　なって　十日めの　ことです。とても　あつい　日が　つづいたので、大学生の　おにいさんが、四年生の　おにいさんと　じろうくんを、よだうらそうプールに　つれて

いって　くれました。けんちゃんや　まさおくんも、うちの　人と　きて　いました。

じろうくんたちは、プールの　中で、おにごっこを　したり、もぐりっこを　したり　しました。おもしろくて、いつまでも　水あそびを　して　いて、とても　つかれました。じろうくんは、夕ごはんが　おわると、

「あした　かけば　いいや。」

と、えにっきを　かかないで、すぐ　ねて　しまいました。

つぎの　日、しんせきの　人が　おはかまいりに　きました。いとこの　みつおくんが、一しゅうかんも　とまって　いく　ことに　なったので、じろうくんは　大よろこびです。じてん

しゃのりを　したり、おとうさんに　かしまの　うみへ　つれて　いって　もらったり、花火を　したり　したので、えにっきは　どんどん　たまるばかりです。

八月十日は　とうこう日でした。そっと　さしだした　じろうくんの　えにっきを　見た　先生は、

「あら、これだけ。じろうくんは、がんばりやだから、きっと　まいにち　つづけて　かいて　くるだろうと、先生は　たのしみ

に　して　いたのよ。まいにちは　むりかしら。でも、だいじょうぶだよね。じろうくんは　がんばりやだもの。」

と、じろうくんの　かおを　見て　いいました。じろうくんは、先生の　にこにこした　かおを　見ると、げん気が　出て　きましたが、すこし　はずかしく　なりました。

つぎの　とうこう日が　ちかづいて　きました。じろうくんが　べんきょうして　いると、四年生の　おにいさんが、

「じろう、十九日は　どんな　ことが　あったっけ。」

と　ききました。じろうくんは、えにっきを　ひろげて　みました。十九日の　ところには、かぶと虫が　二ひき　かいてありました。じろうくんは、

「にいちゃん。いなり山で　つかまえて　きた　かぶと虫に
けんか　させたっぺよ。」
と、おしえて　あげました。
「あっ、そうそう。サンキュー。」
四年生の　にいさんは、にっこりしました。
えんがわに　ざぶとんを　ほしに　きた　おばあさんが、そ
れを　きいて、
「じろうは　えらいなあ。あんちゃんに　おしえて　やれるん
だから。」
と　いいながら、じろうくんの　えにっきを　のぞきました。
そこへ、おかあさんが、大きな　ふとんを　はこんで　きまし
た。おばあさんは、おかあさんにも、
「じろうは　えが　うまいよ。ほら、見て　ごらん。かぶと虫
が　そっくりに　かけて　いるよ。」
と　いいました。
おかあさんも、にこにこして、じろうくんの　かぶと虫の
えを　ほめた　あとで、
「えにっきが　まいにち　つづくだろうかと、ほんとは　おか
あさんも　しんぱいだったの。でも、えらかったね。よく
がんばったね。おかあさんも、じろうに　まけずに、おしご
と　しなくちゃあね。」
と　いいました。じろうくんは、うれしい　気もちと、はずか

しい　気もちが　ごっちゃに　なって、ざぶとんの　上で、でんぐりがえしを　しました。

10　モムンと　ヘーテ

森の　中に、ふたりの　こびとが　すんで　いました。モムンと　ヘーテです。ふたりとも、うずらまめに　手足が　はえたくらいの　小さな　こびとでした。

ふたりは、まいにち、いっしょに　たべものを　さがしに出かけました。

あきの　ある　日、モムンと　ヘーテは、くりを　ひとつみつけました。ふたりは、おどりあがって　よろこびました。ひとつの　くりは、ふたりで　ひと月　かかっても　たべきれ

9　えにっき

1－(2)　自分でやらなければならない勉強や仕事は，しっかりと行う。（勤勉・努力）

1主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

人間が向上していくためには，自分が今，何をすることが大切であるかを考えて目標を決め，その実現のために苦しみにも耐えて努力することが大切である。自分でやろうと決めたことを，苦しみにも耐えてがんばり通そうとさせるものは何かというと，たとえ小さなことでも「自分がやりとげたのだ。」という成就感，満足感であろう。この満足感は，次の目標実現への意欲と自信をおこさせる。そして，努力というものは，他から押しつけられた場合は苦痛であるが，自分がその必要性を自覚して自分なりに工夫したり，人から励まされたりしたときは，楽しくなりいっそうはずみがつくものである。

〈子どもの実態について〉

この期の子どもは，好奇心が旺盛で珍しい事には興味をもつが，地味で継続的な努力を要することは苦手である。しかし，途中で投げ出してしまえば，努力して成し遂げた時の成功感や成就感を味わうことは少ない。そこで，親や教師の励ましや賞賛の下に，この期の基本的な課題である勉強や自分のなすべき仕事を自分でやらなければならないものとして，しっかり行えるよう指導したい。

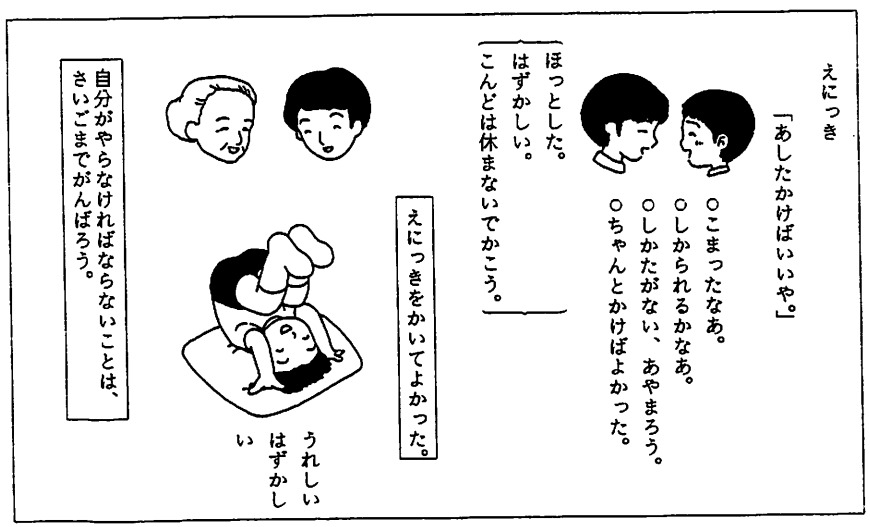
〈資料について〉

本資料「えにっき」は，この点，かっこうの資料であり，事件の流れも自然でむりがない。絵日記が書けていない恥ずかしさと，絵日記がりっぱに書けてほめられたときの恥ずかしさの両面の気持ちを追求することを通して，自分でしなければならないことをやりぬいた喜びが新しい実践への意欲へと変わっていくことを，把握させたい。

2ねらい

自分でしようと決めたことは，最後までやろうとする態度を養う。

□板書



3展開

学　習　活　動	支援上の留意点
(1)　今，学級でがんばっていることを話し合う。 ○　本読み５回は毎日続いていますか。	・　全教育活動で学級のめあてとしてがんばっていることを話題にし，価値にかかわる意識がもてるようにする。
(2)　資料を読んで，じろうの考えや行為について話し合う。 ①　じろうをどんな子だと思いますか。 ・明日書けばいいと思って，毎日書かなかったのはよくない。 ・お兄さんができないのに，絵日記を書いていたじろうはえらいと思う。	・　じろうの行為や気持ちの移り変わりに目を向けて話し合うことができるようにする。
②　登校日に絵日記を出すじろうは，どんな気持ちだったでしょう。 ・困ったなあ。「あしたかけばいいや。」と思ったのがいけなかった。 ・毎日ちゃんと書いておけばよかった。 ・叱られるかな。叱られてもしかたがない。 ・あやまろうかな。	・　役割演技を通して，困っているじろうの気持ちに共感できるようにする。
③　先生のお話を聞いたじろうの気持ちはどうでしょう。 ・ほっとした。 ・先生はこんなにぼくのことを考えてくれているのに，できなかったので恥ずかしい。 ・今度は，休まないで絵日記を書こう。	・　先生のあたたかい励ましと，その励ましをどう主人公が受け取ったかを十分考えることができるようにする。
④　おばあさんとお母さんにほめられたじろうは，どんな気持ちだったでしょう。 ・うれしいし，恥ずかしい。 ・兄ちゃんにも教えてあげることができた。 ・もう絵日記を書くのを休まないぞ。 ・絵日記を書いてよかった。	・　絵日記を書いてよかったという充実感を実感としてとらえることにより，実践へとつなげていけるようにする。
(3)　自分たちの生活について振り返る。 ○　最後までやりぬいてよかったなと思ったことはありませんか。 ・かけ算の九九のカードを作って毎日練習し，覚えたときはとてもうれしかった。	・　多様な体験を出し，やり通した後の喜びを思い出して，自分のよさに気付くようにする。
(4)　教師の話を聞く。 （毎日がんばったことなど）	・　教師の小さい頃の体験談を話して，実践意欲を高められるようにする。